

欧州視察報告＜ 1 2 ＞

視 察 項 目	福祉施策
視 察 日 時	2016年11月11日（金） 午後2時00分～4時00分
視 察 先 名	イエルダス・ゴード（老人ホーム）
説 明 者	所長 エーバ・ブックスフェント氏
担 当	木庭 理香子

【はじめに】

スウェーデンの福祉制度は、世界でトップレベルといわれている。教育費は小学校から大学まで無料、医療費は18歳以下については無料、成人についても医療費の自己負担額の上限は年間900クローネ（平成28年11月現在1クローネ＝約13円で換算し、約12,000円）、薬代は1,800クローネ（約23,500円）と決められているという。また高齢者に対しては、年金から施設入所費や生活費など必要経費を差し引いた残金が、月額2,500クローネ（約32,500円）を下回る場合は、国から不足額の補助が受けられる制度がある。

これらの社会保障費を支えている財源はもちろん税金であるが、国に支払う所得税は、高額納税者のみを対象となっているため、負担義務がある国民は15%程度しかいないということである。そこで国民全体に負担が生じる消費税が主な財源となっており、例えば食料品は12%など軽減税率が様々導入されているが、一般的な消費税率は25%となっている。

また、スウェーデンでは、財源の用途は基本的に各自治体に委ねられているため、居住地域によってサービスにも差があるということである。

そこで、スウェーデン第2の都市であるヨーテボリ市において、スウェーデン国内でナンバーワンという評価を受けた市営の老人ホームであ

るイエルダス・ゴードを訪問し、施設内部を視察させていただき、取り組み内容や、その効果について話を伺った。

【イエルダス・ゴード老人ホームの取り組みについて】

さきほども触れたが、スウェーデンでナンバーワンという評価を受けたイエルダス・ゴード老人ホームも以前は標準的な施設であったという。

もともと施設長のエーバ氏は、この地区全ての施設運営管理責任者で、各施設をサポートする立場だった。そこで各施設長に対し、法律の範囲内で可能な施設改革のマニュアルを作成し指導を行ったが、どこも満足できる改革が行われないことに不満を感じ、自らが理想とするオランダのモデル施設に基づいて、新たな施設をつくることにしたことがきっかけだったという。

施設概要は、94室の個室にパブ・ジム・スパを持ち、74人のスタッフが働いている。

イエルダス・ゴード老人ホームの取り組みは多岐にわたるため、項目ごとに記すこととする。

1. スタッフについて

- 施設の管理者を3人から2人に。
 - ➡施設の管理者は本来3人必要だが、責任を集中させるため、あえて2人にした。
- スタッフの覚悟を確認する。
 - ➡これまでスウェーデンにはない新たな手法の施設を整備するため、賛同できない場合は施設を辞めるよう通達した。
- スタッフは、ほとんどが社員。パートタイマーはいるが、派遣社員はいない。
 - ➡スタッフが積極的に、また施設に対して忠実に働くようになった。
- スタッフ用の制服を廃止し、名札とエプロンを支給し私服で勤務さ

せることにした。

➡利用者にとって施設は「居住の場」であり、制服を着用していると、いかにも世話を「する側」と「される側」に立場が分かれてしまうため、対等に向き合うことができないと考えた。

○ **食事は利用者と共にとる。**

➡施設は、利用者にとってあくまでも生活の場。共に過ごす者として、利用者の日常にスタッフが入っていくことが重要と考えた。

○ **スタッフ自身を様々な施設に視察に行かせる。**

➡新たな施設づくりに意見を出すなど改革に加わり、意欲を持ってもらうため。

○ **スタッフの役割分担を細分化**

➡「予算グループ」…収入・支出などを管理する。

「食事グループ」…栄養管理や食事に関することを担当する。

「イベントグループ」…休暇旅行やアクティビティなどを担当する。

「メソッドグループ」…利用者や親族などへの聞き取り調査や活動内容説明など対応を担当する。

「管理グループ」…スタッフのスケジュール管理を年間通して行う。

2. 施設について

○ 「施設」ではなく「ホテル」と位置付け、シャンデリアや水槽、ピアノ、自動販売機など利用者の希望を聞き取り調査し、居心地の良い快適な空間づくりを演出している。

○ スパは、オープン前に利用者とはスパホテルを視察した結果、利用者の希望で設置された。週3回オープンし、利用者の希望に合わせ、一人で入りたい人の場合もスタッフが必ず一緒に入る。スタッフは、スパに関する講習を受講したうえでサポートに当たる。

○ ジムには専用トレーナーを配属し、本格的な機器を使い、利用者の筋力を鍛えている。また、スタッフは勤務時間内であっても好きな時間に利用できる。

3. 個人に合わせたアクティビティの実施

○ 夏季に休暇旅行の実施

➡夏が短いためスウェーデン人には夏の時期に休暇旅行に行くことを非常に楽しみにしている人が多い。そのため、利用者一人ひとりに希望する場所を聞き取り、宿泊を伴う海水浴などにも職員が一人以上同伴し、希望する限り何回でも連れていく。

➡認知症を患っていても、体が不自由であっても「生きがいのある生活」ができるようにという配慮から実施している。

○ 利用者に役割を与える

➡手紙の仕分けや料理など簡単な作業を手伝ってもらい、能力に応じてできる活動を提供する。

➡役に立つ喜びを体験し、緊張感のある生活を過ごしてもらう工夫をしている。

○ 「パブのタベ」の開催

➡施設内にパブを設け、ワインやビールを飲む環境を作り、利用者が楽しめる場を創出する。

➡施設に長期間住み、生活に慣れている人は、食事時間など生活習慣が一定で、単調な生活を送る人も多い。しかしそれは個室に引きこもり、漠然とテレビを見る時間を作る等、認知症を進めることに繋がっている。そこで、パブでお酒を楽しむことを目的とした夜のアクティビティを作り、おしゃれをし、生活に変化を与え、食事もパブを開催する日は、一日中好きな時間に食事がとれるなど利用者のリズムに合わせる工夫することで、パブの利用率を高めている。

➡夜に起きている時間が長くなり、結果的に利用者の寝つきをよくする効果があった。

➡精神安定剤や睡眠薬の利用率が減少し、97人の利用者のうち3人まで減らすことに繋がった。

○ 庭での日光浴

➡冬場の日照時間が短いためスウェーデン人は、日光浴が好きな人

が多い。自分の意思を伝えることができない人に対して、外で日光浴をしながら皆で共に過ごす時間を作ったところ、表情が乏しかった利用者にも笑顔が増えた。

➡スタッフとのんびり過ごす時間を作り出すことで、コミュニケーションが良好になり、不満などの意見を言いやすい効果がある。

○ 日常のイベントの充実

➡スウェーデン人の大好物、ザリガニパーティーの開催。

➡日中、テレビを見る際は、自室ではなく必ずリビングで見る。

➡映画・スポーツ観戦など元気だったときには当たり前で過ごしていた時間を、介護状態になっても経験させる。

日常のイベントを充実させることで、無理なく、知らない人同士でも顔を合わせる環境を創出し、孤立させない工夫をしている。



ホールで、所長のレクチャーを受ける市議団

【総括 これらの取り組みによって得られた効果について】

スウェーデンには、認知症を患っていても、どんな障害があっても、どんなに高齢であっても、「誰もが最後まで生き抜く権利」が、法律で保障されている。

近年、高福祉国家といわれるスウェーデンでも、政府は福祉行政の費用負担の削減を目指し、在宅介護を推奨している。人は高齢になればなるほど誰かと寄り添っていたくなるが、在宅介護者は家族へ負担をかけまいと、その意思に反して一人で過ごしている時間が増えているという。こういうことによる孤独感が精神衛生上、身体に最も悪い影響を与えている。食欲が減退し体力が落ちるばかりか、うつ状態になっていく高齢者も増え、医療費の増大につながるという悪循環に陥っているということである。

イエルダス・ゴード老人ホームにおいて、オランダ型の老人ホームをモデルにした取り組みによって得られた成果について、まとめると以下のようになる。

1. 利用者の介護状態が劇的に改善し、元気で長生きをする人が増えた。
2. 利用者の寝つきが良くなり、睡眠薬を利用する人も97人中3人まで減らすことができ、尚且つ、夜間の呼び出しも減った。
3. スウェーデンでも、高齢者は子どもたちに負担を掛けたくないという理由で施設に入所する人が多く、家族もあまり訪ねてこないケースが多いというが、この施設には家族の方から訪ねてくることが多く、誕生パーティーを施設で行うなど家族の滞在時間が長くなり、利用者・家族双方にとり居心地の良い施設になっている。

これらの成果がもたらした最も大きな効果は、心が元気になったことで身体も健康になり、利用者の薬代や医療費が削減されたことであるが、その相乗効果で、元気な利用者が多いためスタッフにかかる介護の負担が軽減され、スタッフ自身の病気による欠席が減ったことであるという。

開所当初の2011年には、病気で長期間休むスタッフの割合が

11%であったが、オランダ型の取り組みによる成果により、利用者の健康状態が向上し、それと比例するように病気により欠席するスタッフも4.8%、2.6%と年々減少し、2015年は2.1%まで減らすことができた。病気で休むスタッフにも給与保証により支出していた額は年間42万クローネ（約546万円）あったというが、それらが削減できたことも大きく影響し、現在では130万クローネ（約1,700万円）の黒字を生んでおり、これはヨーテボリ市内で唯一ということであるが、様々なアクティビティを充実させることができるのは、この黒字部分が活用できているからである。

なお、イエルダス・ゴード老人ホームはヨーテボリ市から4,000万クローネ（約5億2千万円）が、年間運営費として支給されている。

今年度から本市では、利用者の介護状態を改善させた老人ホームやデイサービスなどの施設に対して、利用者ごとに5万円程度の報奨金を付与するという取り組みを本格実施させており、新たな財源が必要となっている。介護保険制度のある日本とは基本的な仕組みが異なるスウェーデンと一概に比較することはできないが、このイエルダス・ゴード老人ホームのように利用者の介護状態が改善されたことでスタッフの介護負担が減り、スタッフ自身の健康状態も改善されるということは非常に画期的であると考えます。このような事業者の努力と工夫によって得られる効果についても今後提言し、今後高騰していくことが懸念される本市の扶助費の抑制に議会としても取り組んでいきたいと考える。



理想の老人ホーム実現に向け、アイデアが次々湧いてくるとい
う
所長 エーバ・ブックフェント氏（右）



De yttre miljöerna har också genomgått en stor förändring. Bättre stolar, beduntalt samt en väl använd hammock

日常のアクティビティの一コマ。右上の男性は、入所当初はいつも難しい顔をしていたが、日向ぼっこを続けるうちに穏やかな表情になったという。



夏季休暇に、希望者全員で海水浴に行った時の様子。都合でその時行けなくても、次の機会を提供し、行きたいときに行ける環境を整えてあげるため、バスを借り切り何度も行く。



この女性は、足が不自由になってしまったが泳ぐことが大好きだったため、毎年の海水浴を楽しみにしているという。



この方のように重度の身体的介護が必要な方であっても、運営費の黒字分を活用し、専属の介護士を配置して休暇旅行に連れ出す。帰宅後、具合が悪くなってしまったが、本人が希望し、旅行中もたいへん楽しんでいる様子だったため、家族も納得している。



日常のアクティビティとして行うパーティーの様子。皆ドレスアップし、メイクもして参加する。



スウェーデン人の大好物ザリガニパーティーの様子。運営費の黒字部分を活用し、スタッフも共に楽しむ。



介護スタッフの服装は私服

名札だけを付け、食事介助の時だけエプロンを着用する。



施設ご自慢のスパ

週3回実施し、一人で入りたい人、大勢で入りたい人など全ての希望に対応している。



建物のあちこちにあるリビングのひとつ。



ホビールームの棚

毛糸やフェルト、生地など裁縫が好きな利用者の希望で設置。



ホビールームには作品も展示している。



老人ホームらしい雰囲気もなくインテリアが至る所に配置されている。



利用者に好評の食堂



建物内には、このように何か所も雰囲気異なるリビングが設けてある。



お料理好きな利用者と使うキッチン

みんなのおやつパンやケーキを焼いて提供することもある。



高齢者こそ筋力トレーニングが必要という考えから、
ジムには本格的なマシンが何種類か設置しており、
専属トレーナーもいる。





1階に設置されたバーカウンター

「パブのタベ」と題したイベントを月に数回開催し、利用者にワインやビールを提供している。老人施設では、イベントは昼に行くことが一般的だが、夜に実施することで、夜に起きている時間を長くする効果があり、それが寝つきをよくする効果を生んでいる。睡眠薬の利用率が68%減少した。



バーカウンターのあるホールは、落ち着いた雰囲気演出している。



玄関の横にある見事な水槽は利用者の希望で最近設置された。



市営老人ホーム イエルダス・ゴードの外観

外観は一見シンプルだが、オランダで受賞した老人ホームをモデルにした取り組みとボックスフェント所長の理想が詰まった居心地の良い空間となっている。